八尾市文化財調査報告18

保存用
文化財室

八尾市内遺跡昭和62年度発掘調査報告書Ⅱ

1988.3

八尾市教育委員会

はしがき

八尾市は古来より難波と大和を結ぶ交通の要所として古い歴史と伝統をもっており、近世以後は商都大阪の近郊にあって、高い文化を誇った町であります。このようなことから埋蔵文化財も至って多く、その包蔵地は市域の半分以上を占めています。

そこで、本市におきましても文化財調査体制の整備を計り、鋭意発掘調査に取組んでおり、伝統ある文化財の保全と創造的な文化財行政の推進を目標として、より一層邁進してゆく所存であります。

本書はこの一年間の埋蔵文化財発掘調査の成果をまとめたものです。これらの成果が広く考古学や地域史の研究に活用されることを希望します。

なお、調査に御協力いただいた事業主体者をはじめ、関係者各位に深く感謝の意を表します。

昭和63年３月

八尾市教育委員会

教育長　西　谷　信　次

例　　言

1. 本書は、昭和62年度に八尾市教育委員会が八尾市内で実施した公共事業に伴う埋蔵文化財調査の概要報告書である。
2. 発掘調査は八尾市教育委員会文化財室が原因者に協力を求めて実施した。調査は文化財室職員米田敏幸、鳩村友子（嘱託）が担当した。
3. 本書には当該年度に実施した埋蔵文化財調査を巻末の一覧表に記載し、これらのうち成果のあった5遺跡、5調査地の報告を収録した。
4. 調査に際しては、中野龍介、西森忠幸、横山妙子、杉本尚子、藤田義成他諸氏の参加を得た。
5. 本書の作成は、主として米田が編集・執筆を担当し、観察表、トレースについては杉本の協力を得た。
6. 本調査期間中及び整理期間中には、下記の諸氏の御助言、御教示を得た。記して感謝したい。

（財）八尾市文化財調査研究会　高萩千秋、原田昌則
大阪府教育委員会　福田英人

（敬称略）

目　　次

東郷遺跡発掘調査概要 …… 1
小阪合遺跡発掘調査概要 …… 8
高安神立1号墳測量調査報告 …… 13
中田遺跡発掘調査概要 …… 15
矢作遺跡発掘調査概要 …… 19

東郷遺跡発掘調査概要

1. 調査経過

東郷遺跡は河内平野沖積地に営まれた弥生時代から中世に至るまでの複合集落遺跡である。本調査地は、東郷遺跡のほぼ中央部に位置しており、当集落の古墳時代初頭の墓域が確認されている部分にあたる。

昭和60年８月に、仮称八尾市文化会館建設に先だって予備調査を実施した結果に基づいて、昭和61年10月29日から３月10日までの間、(財)八尾市文化財調査研究会によって発掘調査が実施され、方形周溝墓７基をはじめとする庄内式の時期の遺構の存在が確認された。本調査は、同研究会による調査が終了した後、遺構の延長を確認することと、記録保存の必要上、前調査を補足する形で特に庁舎文化会館準備室に依頼し、その協力によって、工事に併行する形で実施できたものである。調査は、昭和62年１月23日より26日までと、５月12日に前調査区の周囲に３箇所の調査区を設定して実施した。日程も予算もない状況であるにもかかわらず、調査に好意的に御協力いただいた関係者、諸団体に記して感謝を申しあげる。

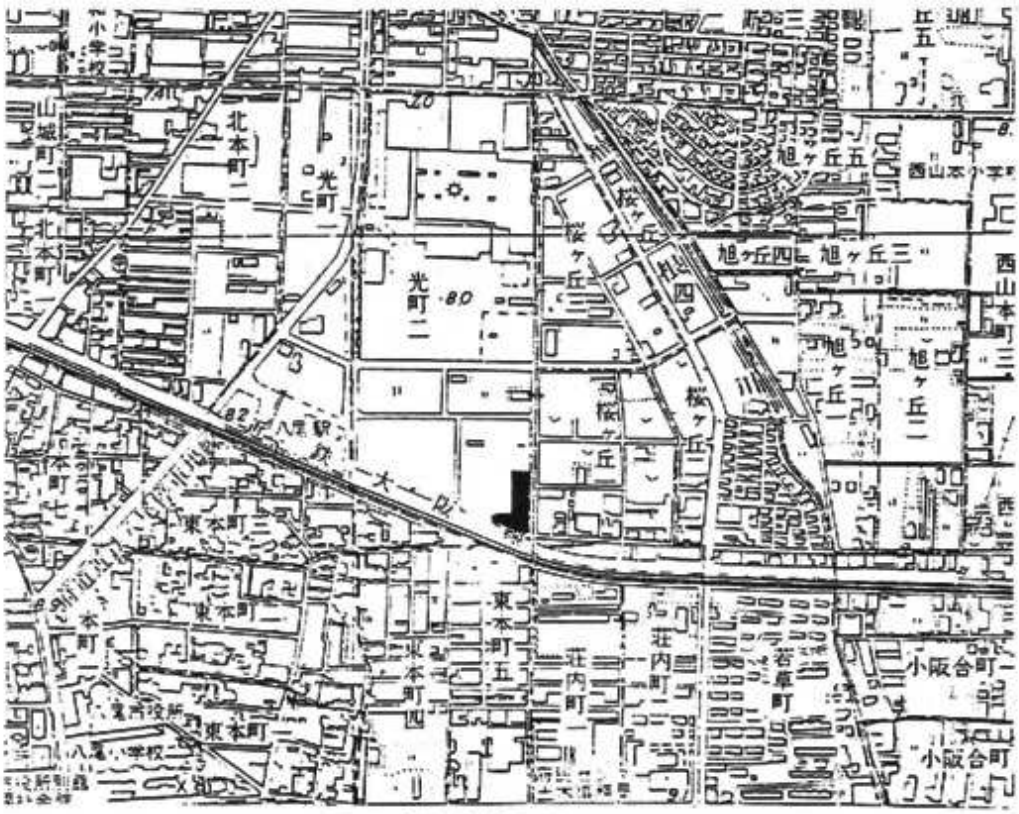


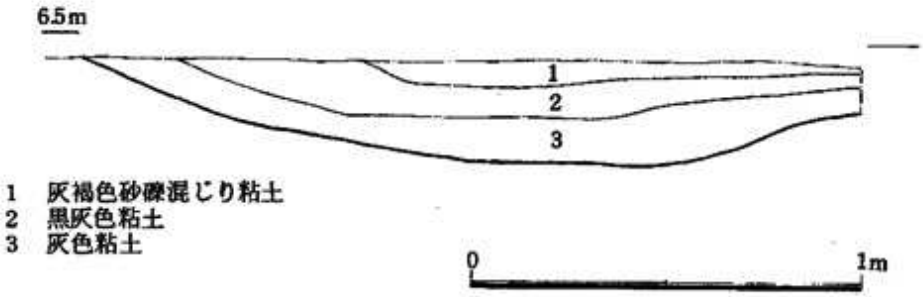
図１　東郷遺跡調査位置図　1:10000

2. 調査概要

第１調査区　前調査で検出された７号方形周溝墓の南への延長を確認するため、幅６ｍ、長さ20ｍの調査区を設定し、遺構面まで掘削した。後世の攪乱により、遺構面の状況が悪かった為西側周溝のみしか検出できなかったが、青灰色シルトを地山にして、幅1.4ｍ、深さ30～40cmの溝がほぼ南北に調査区外までのびていた。溝の埋土はオリーブ灰色の粘質シルトで、庄内式に比定できるの小片が出土している。

第２調査区　前調査で検出した３号方形周溝墓の東側に、東西7.5ｍ、南北13.5ｍの範囲で遺構面直上まで掘削し、精査したところ、３号方形周溝墓の西周溝の延長と南周溝の一部、及び土坑１基を検出した。これらの遺構は、淡灰色の砂質土をベースにして掘りこまれている。西周溝は、内湾しながら調査区中央付近より東北東方向へのび、調査区北端で完結しかけているため、ここに陸橋部が存在するものと思われる。幅は約3.2ｍ～3.3ｍ深さ30cm以上で、長さは約８～10ｍを測る。南溝は、やや蛇行しながら東南東方向へのび、調査区外へ至る。幅は約２ｍ、深さ40cmを測り、検出長は内法で８ｍ以上を測る。これらのことからこの周溝墓は西側または北西に陸橋部をもつ一辺10ｍ以上の周溝墓であったことが判る。周溝の堆積土は３層に分かれ、上層が灰褐色の砂れき混じり粘質土、中層が黒炭色の泥炭層、下層が灰色粘土で、下層の溝底直上で周溝墓に供献されたと考えられる土器が、1.6～２ｍ前後の等間隔に並んだ状況で出土した。土器はいずれも、周溝の中央に近い位置で出土しているため他の箇所よりの転落とは考え難く、原位置を保つものと考えられる。土器の配列は、西周溝は北より、器台、壺、甕、壺、甕、甕、南周溝は西より甕、甕、二重口縁壺となる。

第３調査区　予備調査の結果、調査対象外になっていた区域に10ｍ×10ｍの調査区を設定し、再度確認調査を実施した。淡灰褐色砂質土上面で精査を実施したが、中世以後の小溝を南北に１条検出した他は顕著な遺構の存在を確認することはできなかった。



1　灰褐色砂礫混じり粘土
2　黒灰色粘土
3　灰色粘土

図２　３号方形周溝墓南溝断面図

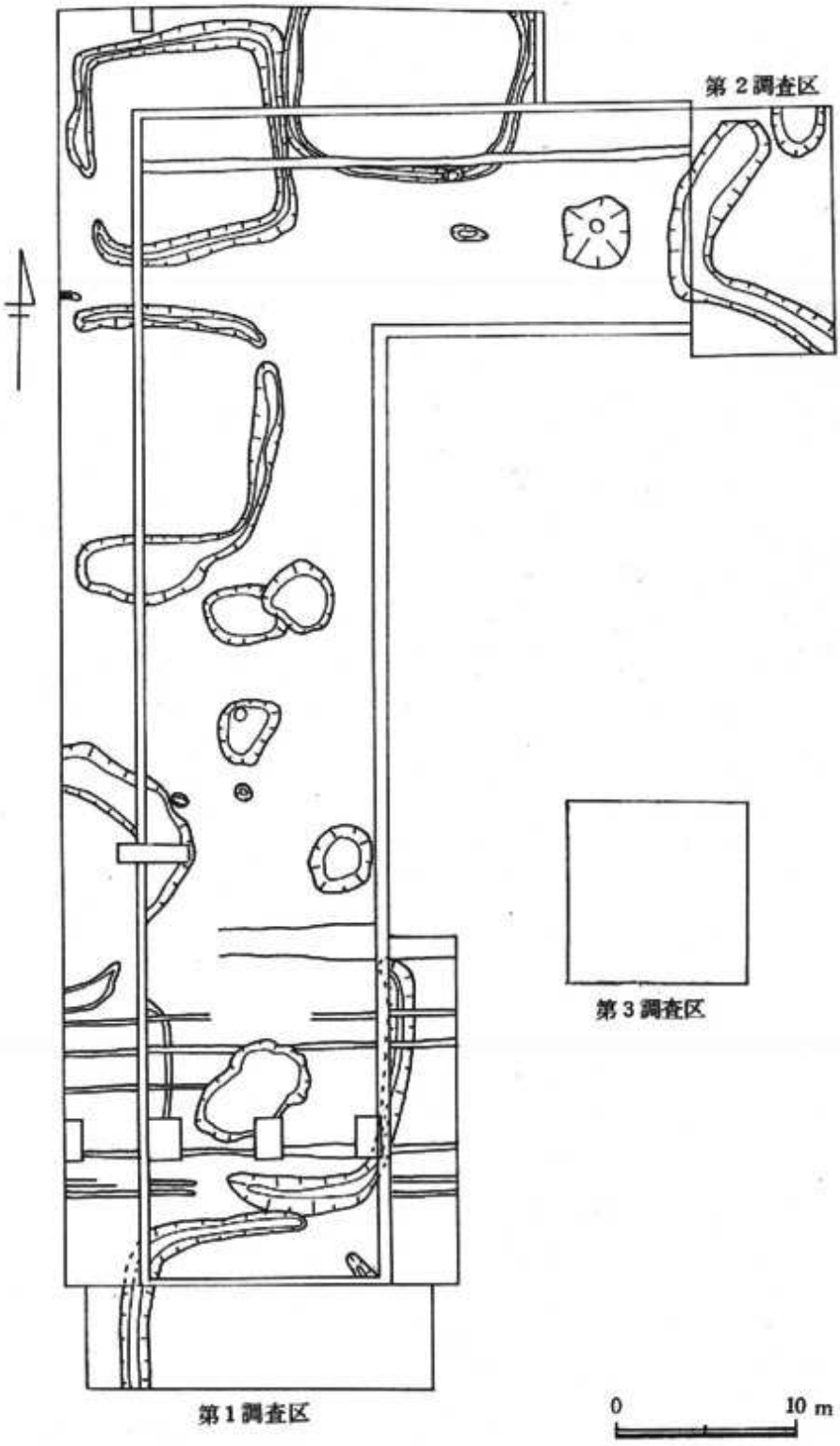


図３　調査区配置図

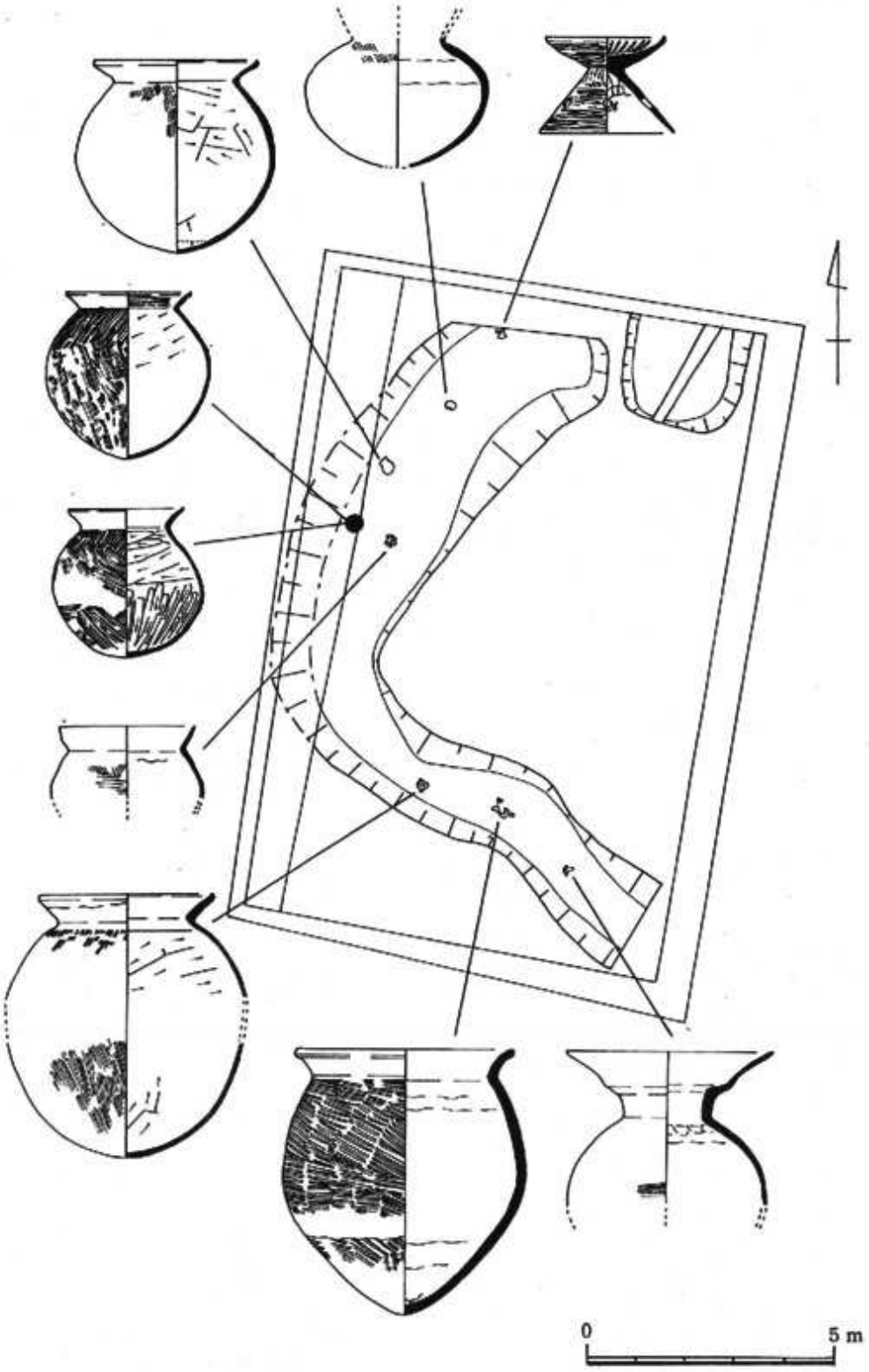


図4　調査平面図

3. 出土遺物

今回検出した遺物は、３号と７号方形周溝墓より出土した庄内式の範疇に含められる古式土師器である。このうち図化が可能であった３号方形周溝墓より出土した遺物について報告したい。１は複合口縁壺で、下半部を欠くが上半は残りがよく、淡赤褐色を呈する。外面に磨きの痕が残り、内面に指頭痕が見られる。複合口縁上段は外方に大きく開く。胎土には花こう岩片と考えられる白色砂粒を含み、精良である。２は口縁を欠くが、偏球形の器体より直口壺であろうと考えられる。外面に細かい刷毛調整を残し、色調は淡黄褐色を呈する。胎土はやや粗い。３は小型丸底壺の祖形と考えられる器種で底部を欠損する。色調は赤褐色を呈し、外面に刷毛調整がみられる精製された土器である。４は小型器台の完形品である。受部および脚外面を丁寧に篦磨きする精製された土器である。５～７はいわゆる庄内式甕である。いずれも角閃石、黒雲母を多量に含む生駒西麓の胎土をもつ。体部はほぼ球形に近く、刷毛目を多用していて、最大径が下位にあることから、庄内期Ⅳ以後の甕であろう。８は畿内第Ⅴ様式以来の伝統を引く甕であるが尖底である。このような甕は、庄内式新相の中河内では製作されておらず、胎土にチャート粒を非常に多く含むことから他地域からの搬入品であろうと推定される。

なお、(財)八尾市文化財調査研究会による調査では、これ以外に２点の庄内式甕が３号方形周溝墓より出土しているが、それらも今回出土のものと類似した器形を呈し、時期的にも矛盾はないものと思われる。

4. ま と め

本調査では、遺構延長の確認が目的であったため、調査としては部分的なものであった。しかし、完掘はできなかったが、３号方形周溝墓の西側と南側の周溝を確認できたことで、前調査成果と合わせて、当方形周溝墓の内容がかなり明らかとなった。特に供献土器の規則的な配列状況には、庄内式の時期特有の特徴がみられ、八尾南２号墓をはじめ、当該時期のいくつかの周溝墓の中には、墳丘を囲繞するような配列をもって土器を供献した例が知られている。八尾南２号墓例では、墓前方にあたる南側陸橋部の両側に吉備の土器が意図的に供献されていたことから、吉備地方の墓前祭祀と何らかの関わりが想定された。当周溝墓においては、半分以上が未掘であるため、土器配列の全容は不明であるが、今後類例の増加を待って、それが持つ意味についての検討を加えたいと思う。

遺物観察表

遺物番号	器種	法量（残存率）単位 cm	成形・調整	色調・胎土	焼成・備考
1	二重口縁壺	口径 17.0（完存） 頸部径 7.2	外面－ヘラミガキと思われるが磨耗の為、不明瞭。 内面－口縁部は磨耗の為、調整不明。頸部～肩部はナデ。	外・断－にぶい黄橙色。内－褐灰色。白色砂粒（径0.5～1.0㎜）多量と赤色砂粒（径0.5㎜）少量を含む。	焼成良好。
2	直口壺	推定体部最大径 15.0（1／2）	外面－ハケ（6本／1㎝）ののちナデ。 内面－ナデ。	外・内－淡橙色。断－明赤褐色。白色砂粒・赤色砂粒・雲母（径0.5㎜以下）を多量に含む。	焼成良好。
3	小型丸底壺	推定口径 11.0（2／3）	外面－口縁部はナデ。体部はハケ（5本／1㎝） 内面－ナデ。	外・内・断－橙色。白色砂粒（径0.5～1.0㎜）赤色砂粒（径0.5㎜以下）多量と雲母（径0.5㎜以下）微量を含む。	焼成良好。外面体部に煤付着。
4	器台	口径 9.9（完存） 器高 8.0 脚部径 11.3	外面－受部はヘラケズリののち、ヘラミガキ。脚部はヘラミガキ。 内面－受部はヘラミガキののち、暗文状にヘラミガキ。脚部はナデ。	外・内・断－橙色。白色砂粒・赤色砂粒（径0.5㎜）を多量に含む。	焼成良好。四方孔。
5	甕	口径 14.3（完存）	外面－口縁部はヨコナデ。体部はタタキ（6条／1㎝）ののち、ハケ（6本／1㎝） 内面－口縁部はヨコナデ。体部はヘラケズリ。	外・内・断－灰黄褐色。白色砂粒（径1.0～2.0㎜）角閃石・雲母（径0.5～1.0㎜）を多量に含む。生駒西麓。	焼成良好。
6	甕	推定口径 14.6（2／3）	外面－口縁部はヨコナデ。体部はタタキ（5条9／㎝）ののち、ハケ（単位不明） 内面－口縁部はヨコナデ。体部はヘラケズリ。	外・内・断－灰黄褐色。白色砂粒・角閃石（径0.5～1.0㎜）多量と雲母（径0.5㎜）少量を含む。生駒西麓。	焼成良好。
7	甕	推定口径 13.6（1／2） 器高 16.3 推定体部最大径 16.4	外面－口縁部はヨコナデ。体部はタタキ（単位不明）ののち、ハケ（5本／1㎝） 内面－口縁部はヨコナデ。体部はヘラケズリ。	外・内・断－にぶい橙色。白色砂粒（径1.0～2.0㎜）角閃石・雲母（径1.0㎜以下）を多量に含む。生駒西麓。	焼成良好。
8	甕	推定口径 17.6（1／2） 器高 21.9 推定体部最大径 20.0	外面－口縁部はナデ。体部はタタキ（3条／1㎝） 内面－ナデ。	外・内・断－浅黄色。白色砂粒・チャート（径0.5～3.0㎜）を多量に含む。	焼成良好。外面体部上半に黒斑あり。外・内面底部に煤付着。

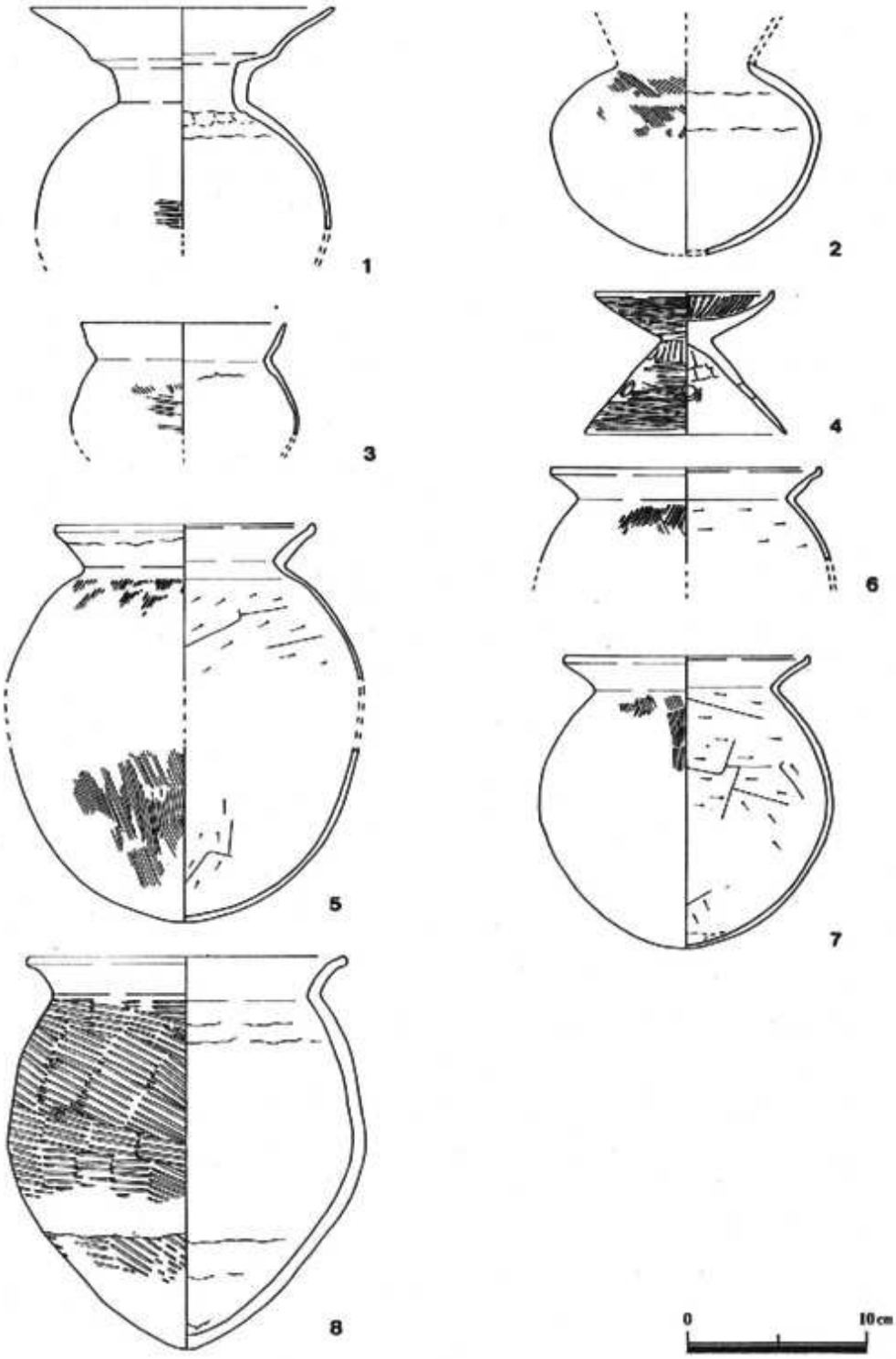


図5　出土遺物実測図

小阪合遺跡発掘調査概要

1. 調査経過

小阪合遺跡は河内平野の沖積地に営まれた弥生時代～中世に至る複合集落遺跡である。本調査は、小阪合遺跡の北部で、その中を流れる楠根川に沿った部分に位置する。この楠根川は財八尾市文化財調査研究会や大阪府教育委員会によって数次にわたる調査がなされており、弥生時代～中世の遺物が多数出土している。

八尾市小阪合町１丁目～若草町の府道平野・中高安線上において、ＮＴＴ大阪東支社より、電話線地下ケーブル付替のため楠根川の東西に立坑の掘削を計画している旨の通知に基づき、昭和62年９月18日と10月21日の両日に遺構確認調査を実施した。調査は各立坑において地表下１ｍ前後までの機械掘削を終了した後旧地盤が残存する幅約１ｍの範囲に長さ４ｍ前後の調査区を立坑内に設定し、以下約１ｍについて手掘りによる精査を行ない層位の確認を実施した。その結果楠根川西側の立坑において中世末の遺物包含層が存在することを確認することができたため、その調査概要を以下に報告する。

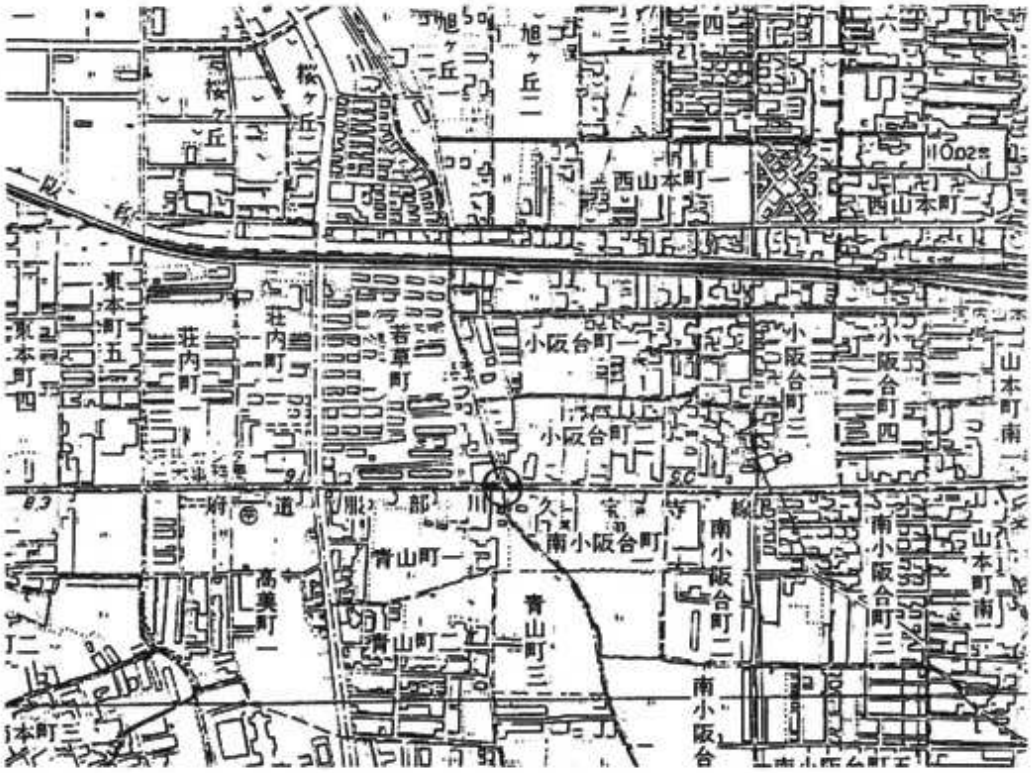


図６　調査位置図　1:10000

2. 調査概要

調査地の基本層序は、地表下約0.8mまでは盛土がなされており、旧耕土以下45cmで遺物包含層に達する。包含層の上層は厚さ約30cmの茶灰色のよく締まった粘質土で整地土であると考えられる。それ以下は、かなり柔らかい灰色～暗灰色の粘土で、かつては沼状を呈していたと思われる。この中にもかなりの量の瓦片や羽釜片等の遺物が含まれていた。調査はこれらの取上げを行なったのち断面観察を行なった。

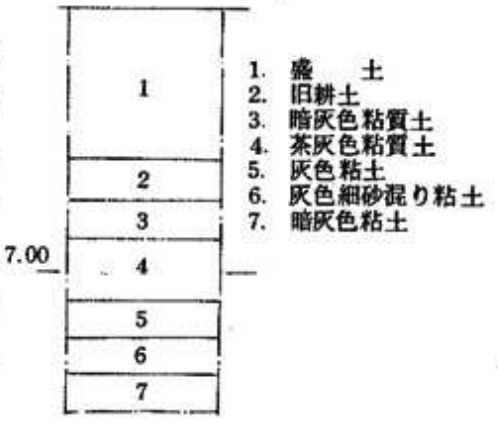


図7　小阪合遺跡基本層序

3. 出土遺物

出土した遺物は、いずれも鎌倉～室町時代のもので、土器としては甕（1）、鉢（2）、羽釜（3～8）、摺り鉢（9）等がある。これら羽釜、摺り鉢等には瓦質のものが多く、いずれも室町時代中期～後期のものと思われる。瓦には鎌倉時代～室町時代のものがある。軒丸瓦は巴文の周囲に1条の圏線をめぐらし、その外に珠文を配するもの（2.5.6.8）と2条の圏線の間に珠文を巡らすもの（8）が見られる。軒平瓦には、2本の孤線に画された連珠文があるもの（3）と、唐草文の退化したC字が反転するもの（4）がみられる。平瓦には、凹凸面をナデて仕上るものが多いが、格子状の叩きを凸面に残すもの（1）がある。

4. ま と め

本調査で出土した遺物より小阪合遺跡内における中世寺院の存在を裏づけることとなった。この付近の調査資料としては、当該調査地の南側に隣接する所で中世の集落遺構が八尾市文化財調査研究会によって調査されており、これらの遺構との関わりが今後の課題である。この付近に小阪合廃寺なるものの存在が想定されるとすれば、その遺構の存在を確認する必要があると思われる。

遺物観察表

遺物番号	器種	法量（残存率）単位 cm	成形・調整	色調・胎土	焼成・備考
1	甕	推定口径 26.0（1／6）	外面－口縁部はヨコナデ。体部はタタキ（3条／1cm） 内面－口縁部はヨコナデ。体部はヘラナデ。	外－灰褐色。内－灰色。断－灰白色。白色砂粒（径0.5～2.0mm）を多量に含む。	焼成良好。
2	鉢	推定口径 28.4（1／11）	外面－ヨコナデ。口縁部付近に2本の突帯を持ち、その間にスタンプで文様を施す。 内面－ヨコナデ。	外・内－黒色。断－灰白色。精密。	焼成良好。瓦質。
3	羽釜	推定口径 27.2（1／6） 推定鍔径 33.4	外面－鍔上部はヨコナデ。鍔下部はヘラケズリ。 内面－ヨコナデ。	外－灰色。内－黒褐色。断－橙色。白色砂粒（径0.5～1.0mm）を多量に含む。	焼成良好。外面鍔下部と内面口縁部に煤付着。
4	羽釜	推定口径 24.8（1／6） 推定鍔径 31.6	外面－鍔上部はヨコナデ。鍔下部はヘラケズリ。 内面－ハケ（5本／1cm）ののちヨコナデ。	外－浅黄橙色。内－暗灰色。断－灰白色。白色砂粒（径0.5～2.0mm）を多量に含む。	焼成良好。外面鍔下部煤付着。
5	羽釜	推定口径 26.2（1／8） 推定鍔径 31.0	外面－鍔上部はヨコナデ。鍔下部はヘラケズリ。 内面－ハケ（10本／1cm）ののち口縁部付近ヨコナデ。	外・断－灰白色。内－黒色。白色砂粒（径0.5～3.0mm）多量とチャート（径1.0～3.0mm）少量を含む。	焼成良好。外面鍔下部と内面に煤付着。
6	羽釜	推定口径 15.4（1／6） 推定鍔径 19.2	外面－ナデ。鍔直上部に穿孔あり。 内面－ハケ（5本／1cm）ののちナデ。	外・内－黒色。断－灰白色。白色砂粒（径1.0mm以下）を多量に含む。	焼成良好。外面に煤付着。
7	羽釜	推定口径 22.8（1／6） 推定鍔径 28.8	外面－鍔上部はヨコナデ。鍔下部はヘラケズリ。 内面－ハケ（7本／1cm）ののち口縁部付近ヨコナデ。	外－灰白色。内－黒色。断－灰白色～淡赤橙色。白色砂粒（径0.5～3.0mm）を多量に含む。	焼成良好。外面鍔下部と内面に煤付着。
8	羽釜	推定口径 20.4（1／8） 推定鍔径 27.0	外面－鍔上部はヨコナデ。鍔下部はヘラケズリ。 内面－ハケ（10本／1cm）ののち口縁部付近ヨコナデ。	外・黒色。内－灰色。断－灰白色。白色砂粒（径0.5～2.0mm）を多量に含む。	焼成良好。外面鍔下部に煤付着。
9	擂り鉢	推定底径 11.4（1／6）	外面－ハケ（4本／1cm）ののち、ナデ。 内面－ナデ。擂し目（3本／1cm）。	外・内－黒色。断－灰白色。精密。	焼成良好。瓦質。

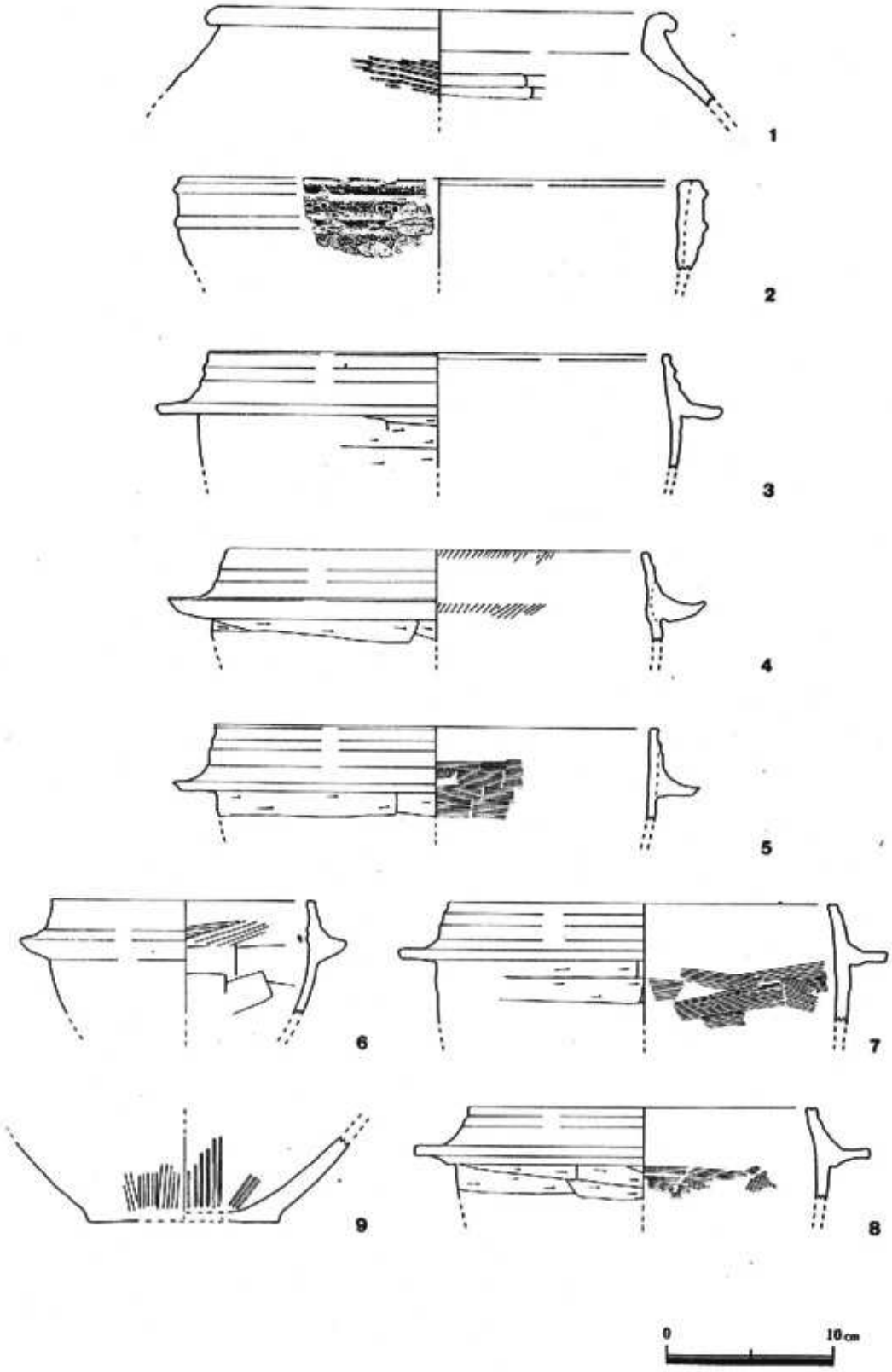


図8　出土遺物実測図

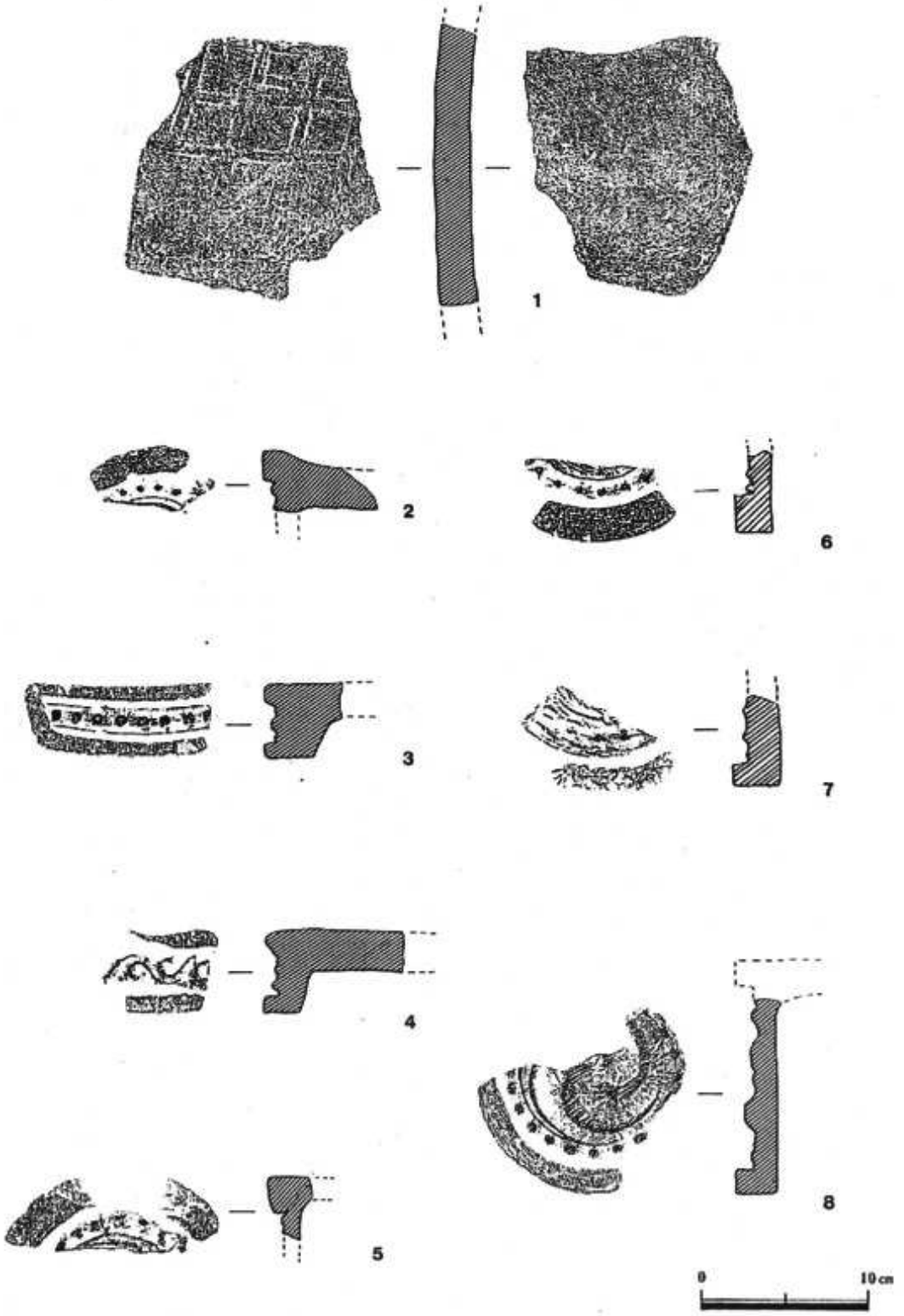


図9　出土遺物実測図

高安古墳群測量調査報告

1. 調査経過

八尾市道路課から八尾市神立で道路新設を計画している旨の協議を受け、昭和62年11月22日に道路建設路線上の分布調査を実施した結果、予定地内に古墳が存在することを確認したため11月27日～12月1日の期間で測量調査を実施した。

2. 調査概要

予定路線上に位置する当古墳は、八尾市神立集落の南方約1Km、標高90mの畑地の中に所在している。地元の人によると、この付近はシバツカという地名があったらしい。

古墳の墳丘は、大半の部分が畑の開墾による改変を受けているため旧状を失っている。墳頂には柿の大木があり、古墳の上を里道が通っている。西の畑から墳頂までの比高は4.5m以上あり、等高線の変形部分より、直径20mほどの円墳であったと想定できる。

柿の下に露出している石材は大きさが1m以上もあるものがあり、積み重ねられた状況を呈する。このことから、これらは古墳の石室を構築する石材であると考えられる。特に最上にある巨石は、その天井石であろう。石材は石垣に使用されたものもあるということなので石室が完存しているとはいい難いが、まだかなりの部分が土中に埋まっていることが考えられる。

石室の構造や内部の状況は一切不明であり、発掘調査の結果を待つしかないが、おそらく6世紀後半に築造された横穴式石室を内部主体とする古墳であると推定される。

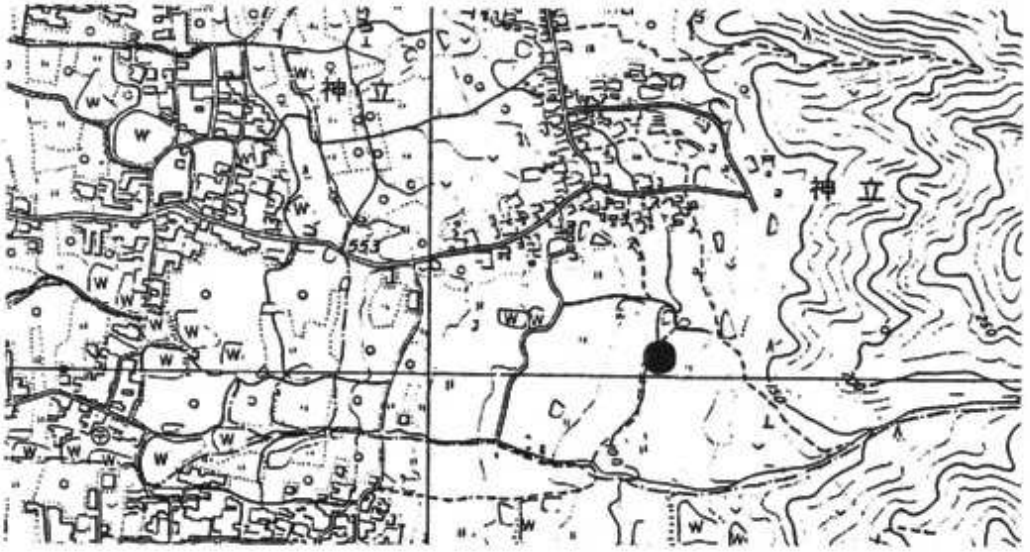


図10　調査位置図　1:10000

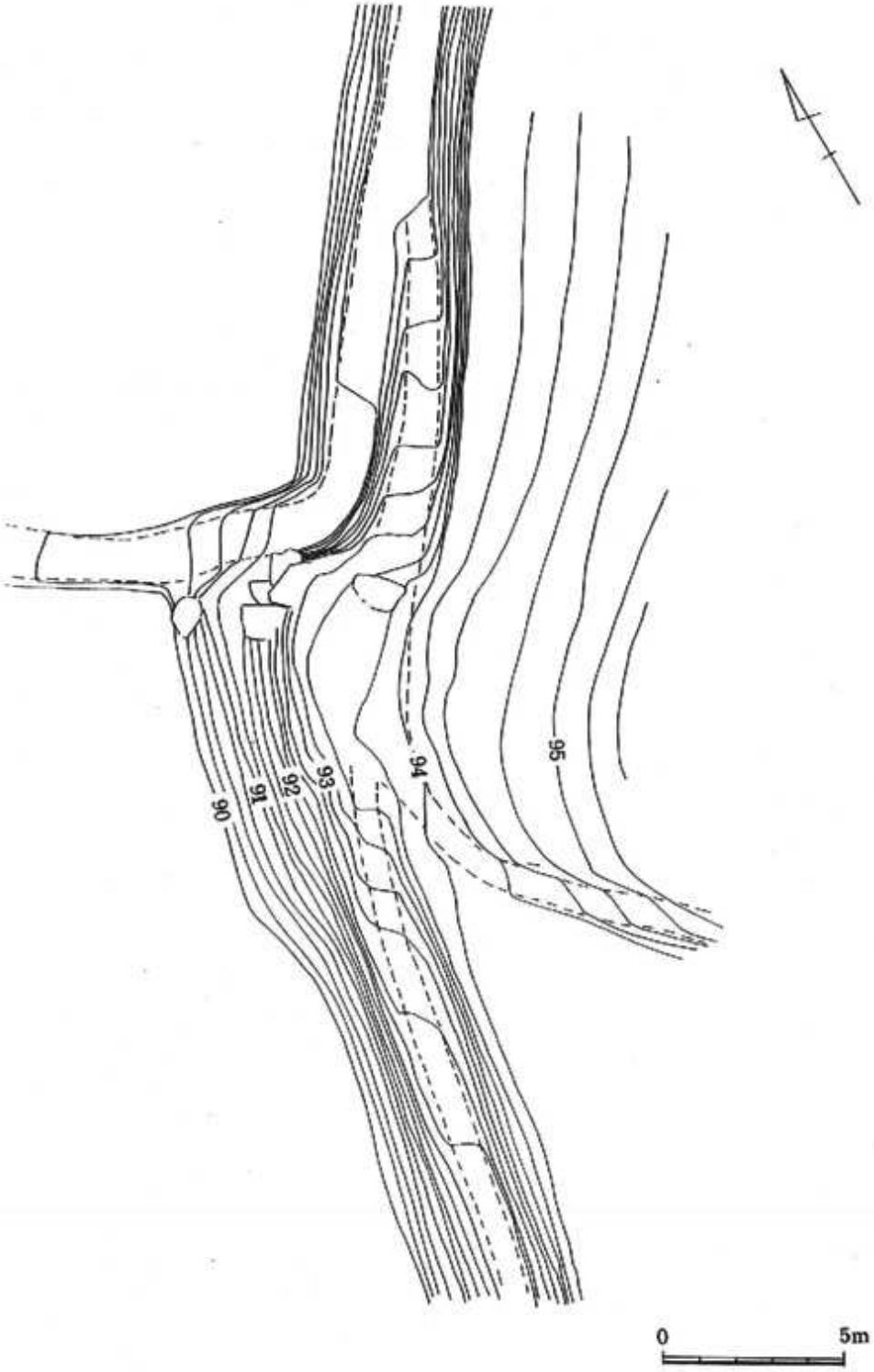


図11　測量図

中田遺跡発掘調査概要

1. 調査経過

中田遺跡は河内平野の沖積地に営まれた弥生時代～中世に至る複合集落遺跡である。本調査は、中田遺跡をほぼ東西に横断する形で、実施することになった。

八尾市八尾木北５丁目、八尾木北３丁目～刑部１丁目、八尾木北１丁目～高美町５丁目地内の10箇所において、八尾市下水道建設課より、公共下水道築造に伴う立坑の掘削のため土木工事を計画している旨の通知に基づき、昭和62年12月14日～３月11日の間で、逐次に遺構確認調査を実施した。調査は各立坑において地表下２ｍ前後までの機械掘削を終了した後任意の範囲に調査区を設定し以下約１ｍについて手掘りによる精査を行ない層位の確認を実施した。その結果八尾木北５丁目の路上で掘削した１箇所の立坑において弥生時代前期の遺構の存在を確認することができたがその他の箇所においては遺構、遺物を検出することができなかった。これらのうち弥生前期の遺構を検出した立坑の調査概要を以下に報告する。なおこの立坑は工事の連絡の手違いにより掘削工事が先行していたため、不充分な調査にならざるを得なかった。

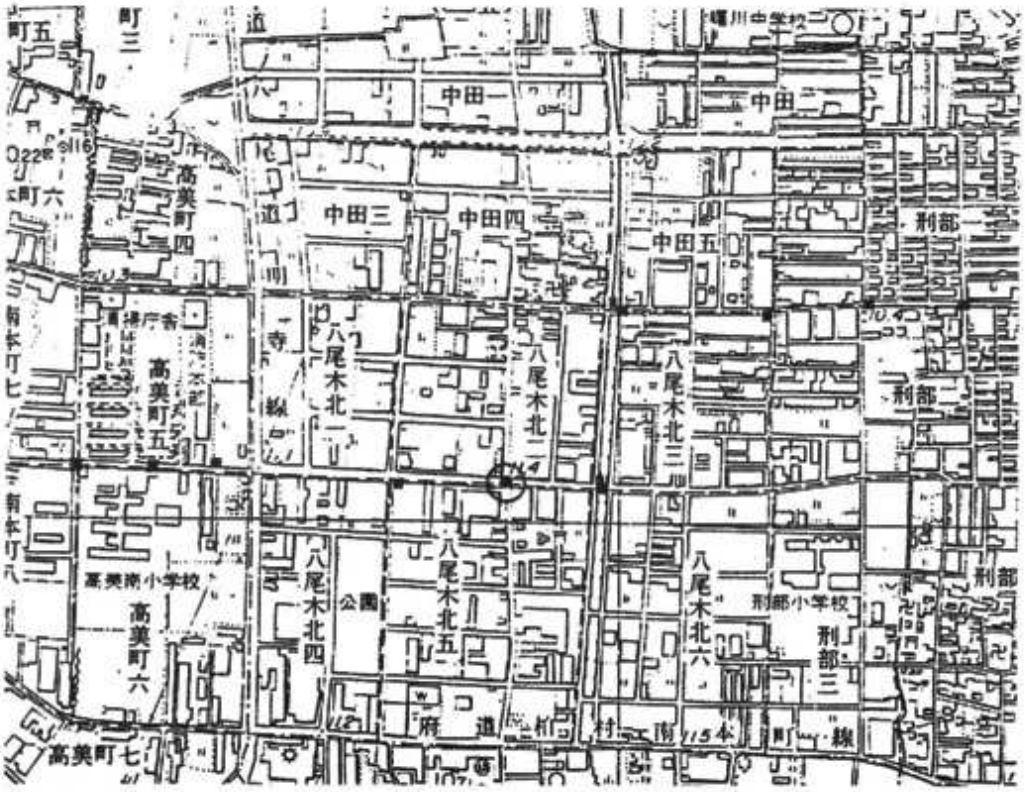
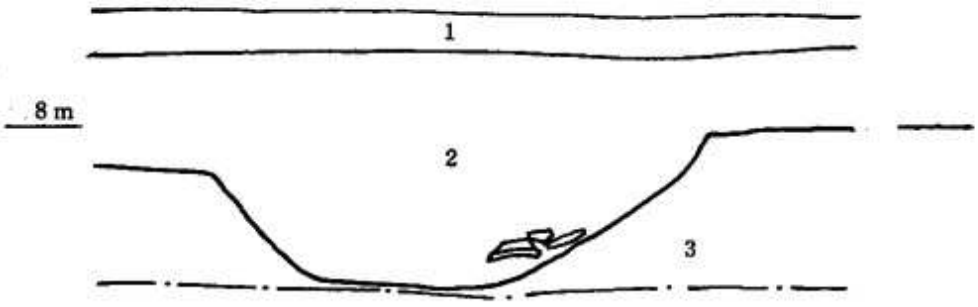


図12　調査位置図　1:10000

2. 調査概要

調査地の基本層序は、地表下約3ｍまではすでに工事が先行してしまっていたため調査することができなかったが、弥生前期の包含層は、地表下3.2ｍ以下約20cmの厚みで存在する暗灰色粘質シルトである。遺構を確認した段階ではすでに工事によって遺構が半壊された状況であったため、調査は断面観察と遺物の取上げを行なったのみである。遺構は、標高8ｍの青灰色シルト上面より掘り込まれた土坑であると考えられる。土坑の検出幅は約1.3ｍで、深さは約40cmを測り包含層と同質の土を埋土とする。埋土内より土器および石器を検出した。



1　青緑灰色粘質シルト
2　暗灰色粘質シルト
3　青灰色シルト　　Scal=1/20

図13　土坑断面図

3. 出土遺物

遺物はいずれも弥生時代前期中段階に位置するもので、土器としては壺、鉢および壺の蓋と思われるもの1がある。2～7は壺の破片で、頸部に削り出し突帯を施す6や肩部に2条または4条の沈線をめぐらす2.4と雷文様の施文をする7が見られる。8～9は甕で、口縁の下に3条の沈線をもつ8.9と無文の10がある。11～13は無文の鉢である。石器としては、使用痕のあるサヌカイトの剥片18が1点出土している。

4. ま と め

本調査では、中田遺跡においてははじめて弥生時代前期の遺構の存在を確認することができた。この付近では調査資料が少ないため遺構の状況が定かではなかった。しかし他の立坑においても対応する地層を確認したが遺物の包含はなかった。しかし今後中田遺跡の深層を調査し、同時期の遺構の広がりを確認する必要があると思われる。

出土遺物観察表

番号	器種	法量	形態、技法の特徴	色調	胎土	焼成
1	蓋	口径12.8cm	内、外面ヘラ磨き、中央に円孔あり。	暗茶褐色	雲母を含む	良好
2	壺	口径18cm	内、外面ヘラ磨き、外面端部に指頭圧痕。	暗茶褐色	精良	良好
3	壺	口径15.4cm	内、外面ヘラ磨き、内面端部に指頭圧痕。	茶褐色	精良	良好
4	壺（体部）	胴径24.4cm	外面ヘラ磨き、内面ナデ。肩部に二条の沈線を施す。	赤褐色	精良	良好
5	壺（肩部）	――	内、外面ヘラ磨き、4条の沈線を施す。	暗灰白色	精良	良好
6	壺（頸部）	――	内、外面ヘラ磨き、2条の削り出し突帯を有する。	灰褐色	精良	良好
7	壺（肩部?）	――	ヘラによる雷文様の施文をする。	乳灰色	精良	良好
8	甕	口径21cm	口縁部：内、外面指頭圧痕 体部：内外面刷毛ナデ、頸下に3条の沈線を施す。外面に煤付着。	灰褐色	精良	良好
9	甕	口径17.4cm	内・外面ナデ、頸下に3条の沈線　口端部に刻み目	外面　黒色 内面　暗茶色	精良	良好
10	甕	口径18.2cm	外面刷毛ナデ、内面ナデ、外面に煤付着	灰褐色	精良	良好
11	鉢	口径18.2cm	内・外面ヘラ磨き、内面に指頭圧痕	灰褐色	精良	良好
12	鉢	口径17.3cm	内・外面ヘラ磨き	外面　暗茶灰色 内面　黒灰色	精良	良好
13	鉢	口径15cm	内・外面ヘラ磨き	外面　暗灰黒色 内面　暗黒灰色	精良	良好
14	（底部）	底径8.6cm	外面ヘラ磨き、底部付近に指頭圧痕　内面指頭圧痕	褐色	精良	良好
15	（底部）	底径6.6cm	内、外面ヘラ磨き	黒色	精良	良好
16	（底部）	底径6.6cm	外面刷毛ナデ、内面ヘラナデ	乳褐色	精良	良好
17	（底部）	底径10.6cm	外面ヘラ磨き、内面ナデ	褐色	精良	良好
18	石器	長径7.6cm 短径6.6cm	一辺に使用痕あり、スクレーパーか？サヌカイト製	黒色	――	――

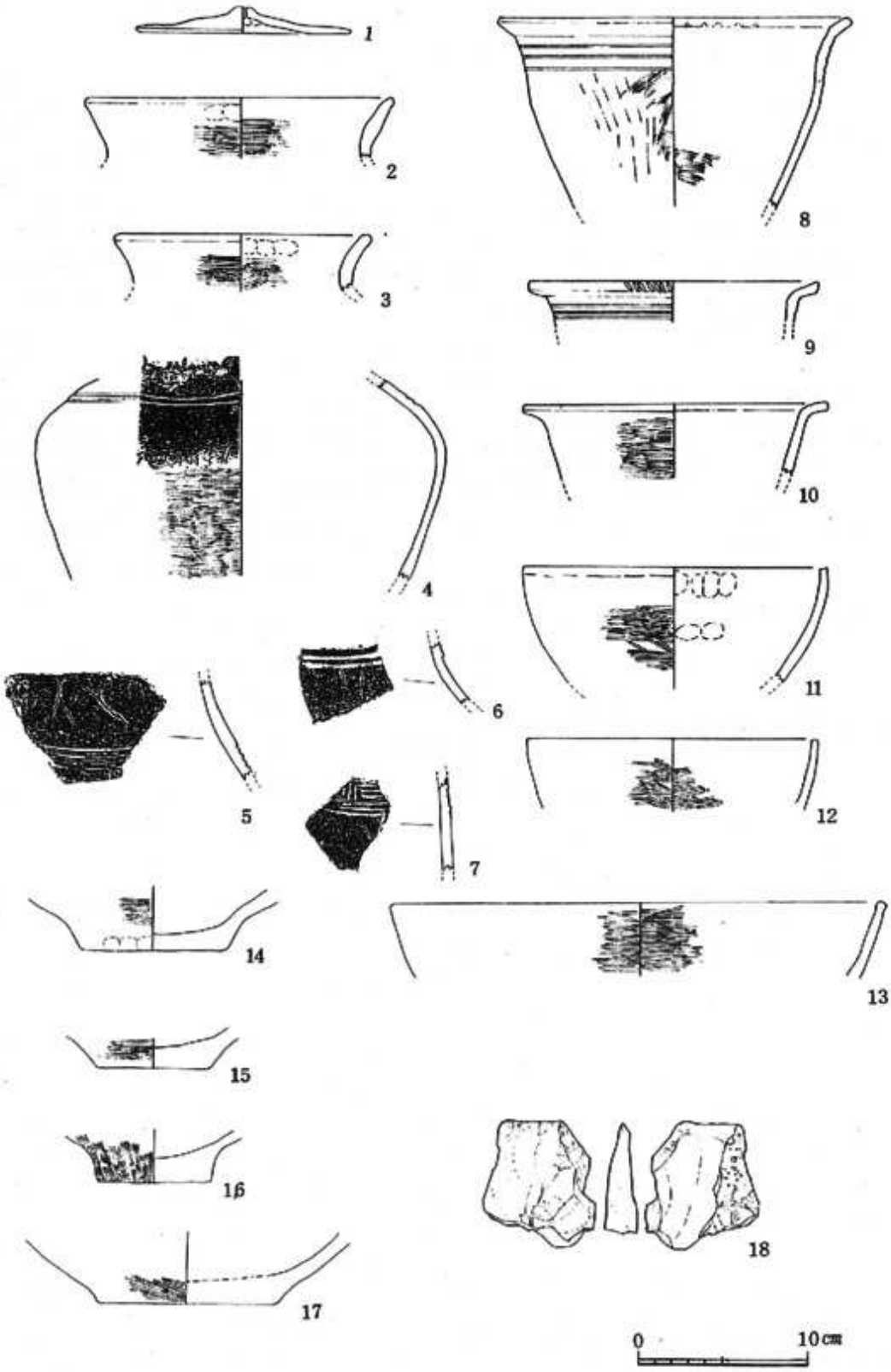


図14　出土遺物実測図

矢作遺跡発掘調査概要

1. 調査経過

矢作遺跡は河内平野の沖積地に営まれた弥生時代～中世に至る複合集落遺跡である。本調査は、矢作神社の東100ｍで、当遺跡のほぼ中心部分に位置する。この地点の北東に近接する箇所では、(財)八尾市文化財調査研究会によって昭和62年1～3月に発掘調査が実施されており、弥生時代～中世の遺構を多数検出している。

八尾市高美町４丁目141において、社団法人八尾納税協会より、事務所建設のため土木工事を計画している旨の届出に基づき、昭和62年７月24日に遺構確認調査を実施した。調査は施工予定地において２×３ｍの調査区を設定し、地表下２ｍ前後まで掘削実施した後精査を行ない層位の確認を実施した。その結果古墳時代の遺物包含層が存在することを確認することができたため、その調査概要を以下に報告する。

2. 調査概要

調査地の基本層序は、地表下約0.９ｍまでは盛土がなされており、旧耕土以下50～60cmが遺物包含層で、上層より明灰色れき混じり粘質土、黄茶褐色粘質土、茶灰色粘質土となる。それ以下の黄灰色シルトには、遺物の包含は認められなかった。

3. 出土遺物

出土した遺物は、いずれも古墳時代後期のもので、須恵器、土師器等がある。これらの多くは破片であるが、須恵器の中には６世紀末ごろの杯の完形品を１点検出した。また土師器には同時期とみられる高杯の脚も見られる。

4. ま と め

調査で出土した遺物は昨年北西100ｍで検出した古墳時代の建物との関連を思わせるものである。

図15　調査位置図　1:10000

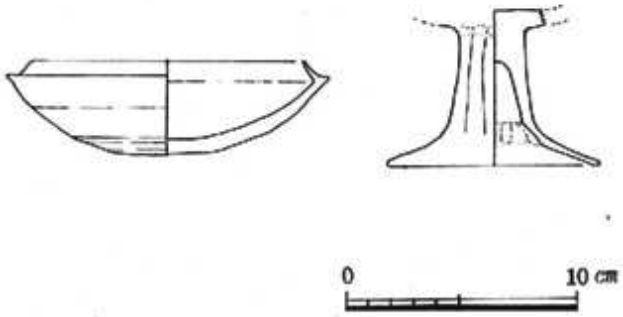
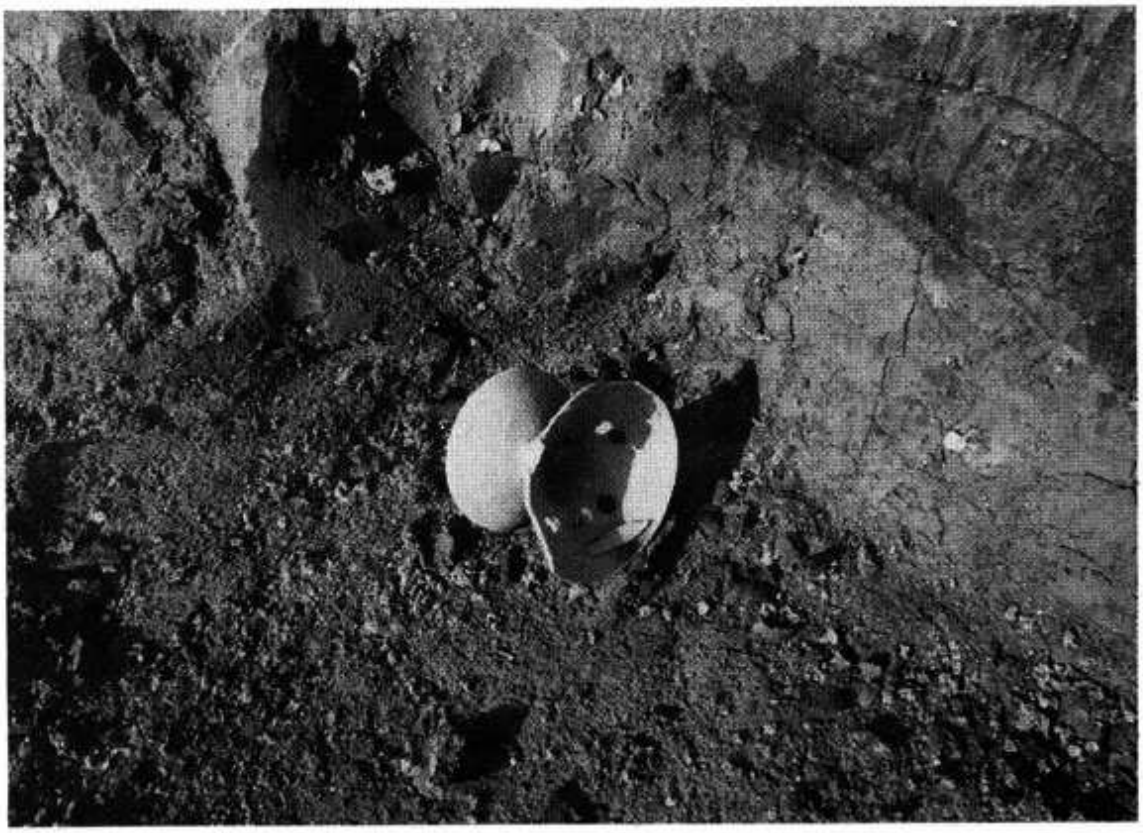


図16　出土遺物

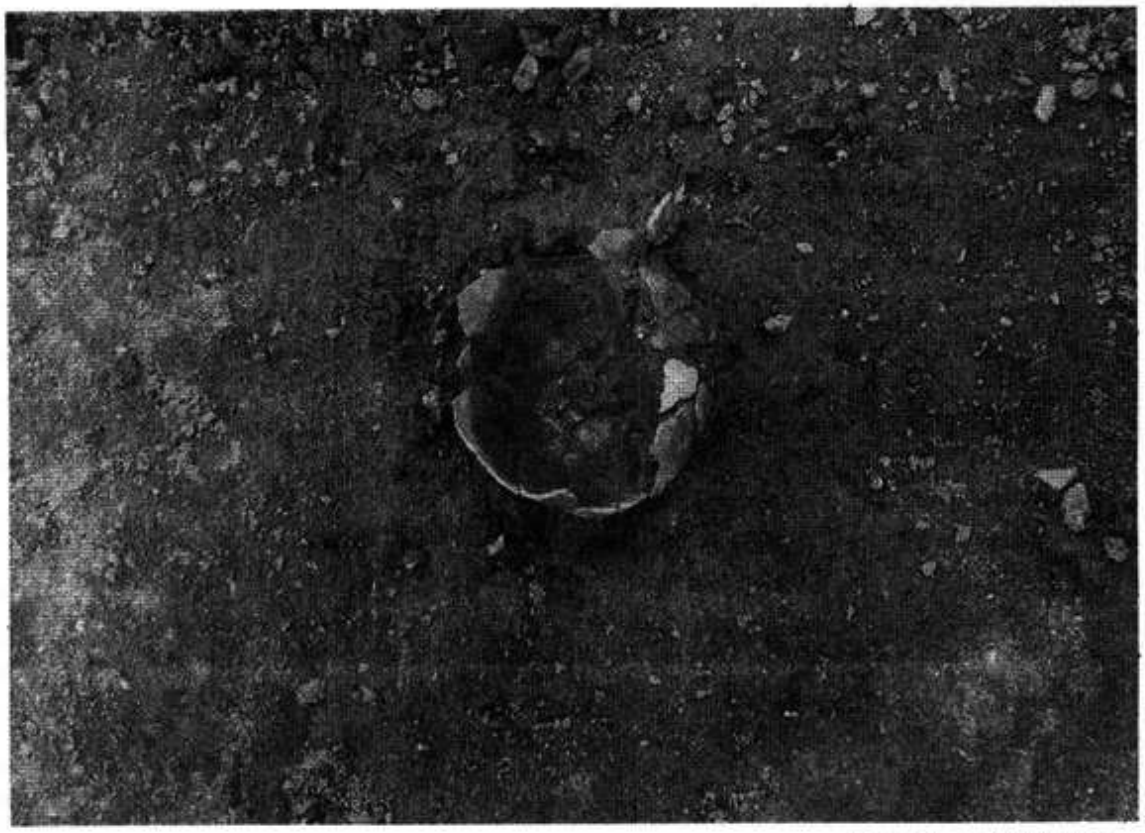
図版1

東郷遺跡第2調査区

東郷遺跡第1調査区



東郷遺跡　遺物出土状況

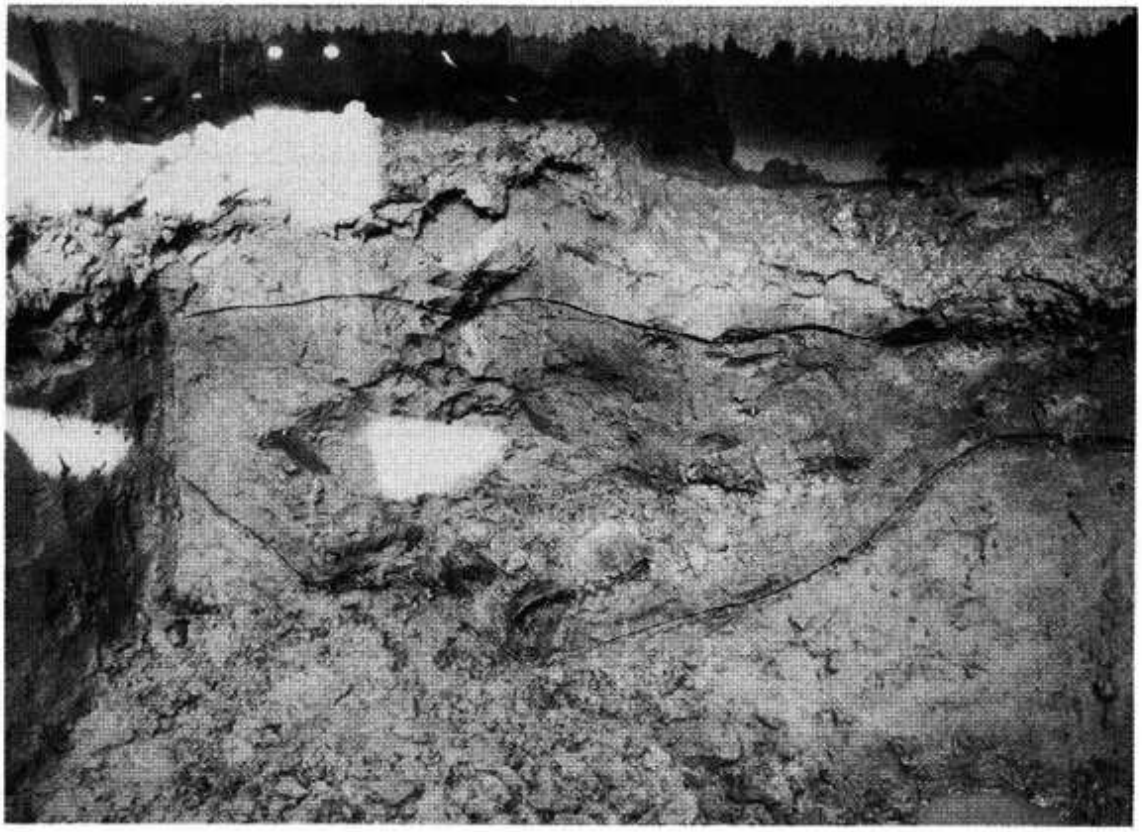


東郷遺跡　遺物出土状況

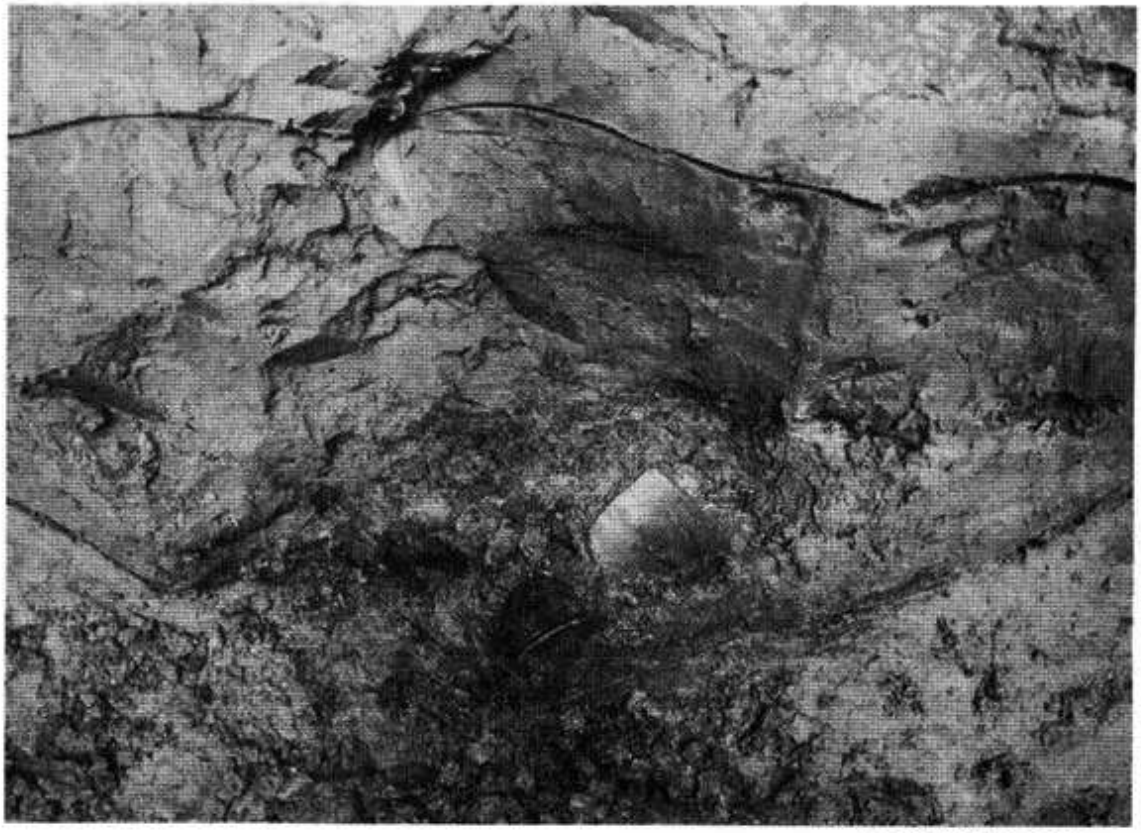
図版3

小阪合遺跡調査トレンチ

高安古墳群　仮称神立1号墳

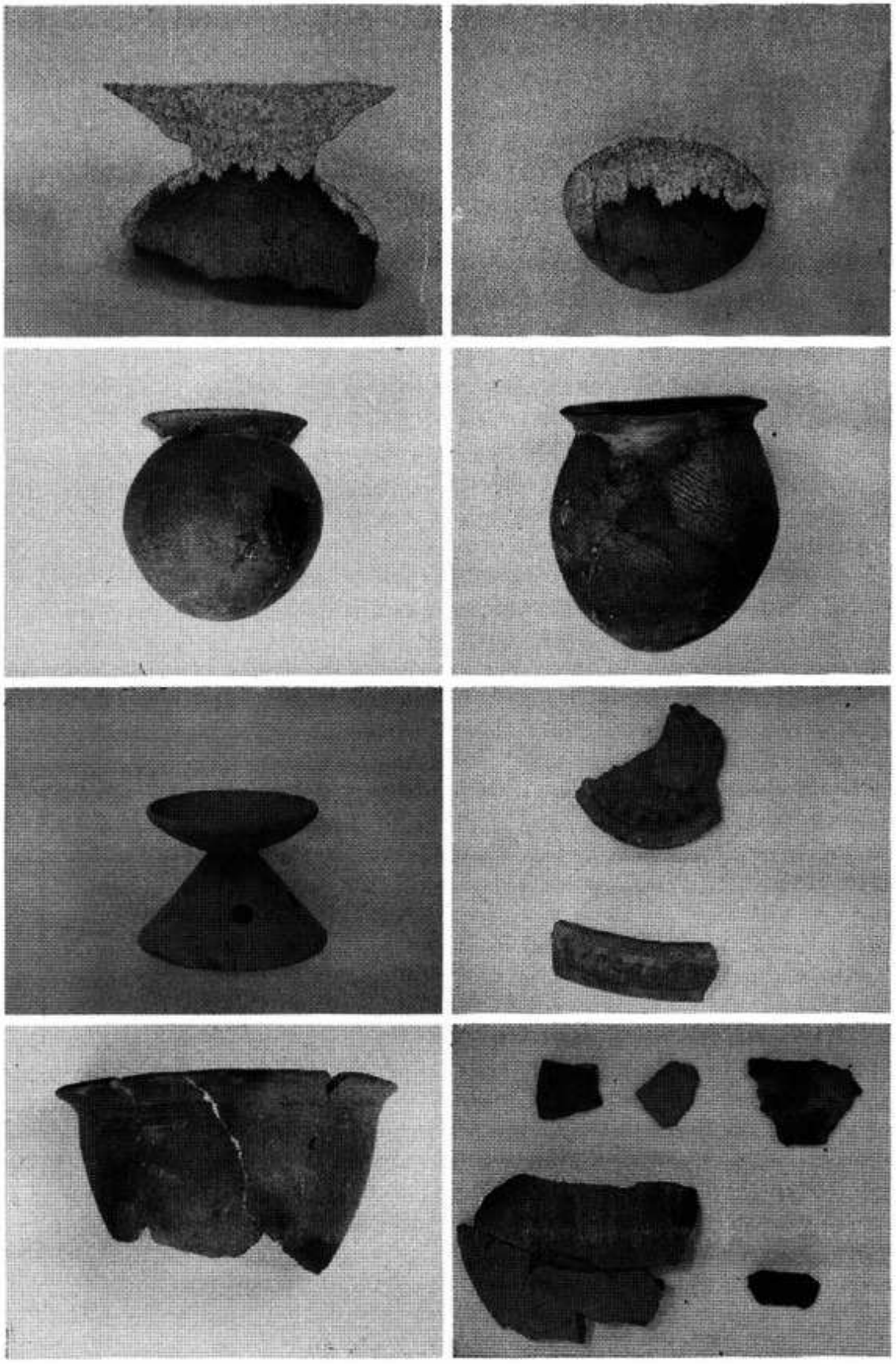


中田遺跡土坑断面



中田遺跡遺物出土状況

図版5



出土遺物